

帝京大学での2013年度キッズアスレティックス指導者養成講習会の開催報告

The holding report of the kids Athletics leader training school in the 2013 fiscal year in Teikyo University

永島昇太郎

Shoutarou Nagashima

帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科

Faculty of Medical Technology, Teikyo University, 359 Otsuka, Hachioji, Tokyo, Japan

Abstract

It is the report of the practice about holding of the cultivation short course of the “instructor” by “the Japanese kids Athletics association” which is a spread promotion organization of the IAAF Kids Athletics authorization performed in Teikyo University in the 2013 fiscal year.

I. キッズアスレティックスと指導者養成プログラム

キッズアスレティックス (Kids' Athletics) は、国際的なスポーツの統括組織のひとつである国際陸上競技連盟 (IAAF: International Associations of Athletics Federation) が、全世界のこども向けに“走る・跳ぶ・投げる”を中心として開発したフィジカルリテラシー・プログラムである。

このフィジカルリテラシー (Physical Literacy) とは、「からだを動かす基本的な能力 (体力・運動能力) やその基礎となる知識の総称」である。

国際陸連は、このキッズアスレティックスを、コーチ教育認証制度 (CECS: Coaches Education and Certification System) という世界標準のコーチ資格制度の中で、最も基本となるレベル1 (ユースコーチ) カリキュラムのなかで扱っている。

“キッズを教える能力”は、コーチングの原点であり、コーチの根幹となるべき資質だといえる。一般的に、競技レベルや自己管理能力の高いアスリートには、専門的なコーチングで対応できるが、キッズやユースのアスリートには、多様なコーチングスキルが要求される。

コーチ (指導者) の些細な言葉や態度のひとつで、こども達は即座に反応・行動をし、その後のこども達が進む道に大きな影響を及ぼすことから、この時期のコーチングは重大な責任を担っているといえる。

わが国のスポーツは、学校体育を中心として、課外活動や地域クラブの活動が基礎となっているが、最近のキッ

ズスポーツは、学校や地域など組織の体制、親や指導者の要望・期待など多くの要素が絡み、競技スポーツの低年齢化と勝利至上主義の傾向が強くあらわれている。

本来、キッズスポーツの目的である、「興味」、「動機」、「体験」、「楽しみ」、「継続」、「努力」、「目標」、「達成」などの多くの要素があり、これらが周囲の組織や個人の意向によって、記録や成績を重視した方向に偏るようになることは大変危険なことと言える。

これからキッズスポーツに関わる指導者は、こうした現実に問題意識を持つと同時に、つねに理念を持った指導のあり方を考える必要がある。

キッズアスレティックス指導者養成では、国際陸上競技連盟が開発したこどもの身体能力の基礎である『走る』、『跳ぶ』、『投げる』の運動の三要素を基本として、こどもの身体能力向上のための教育システム運動プログラムを実施するための指導能力の獲得と、資質の向上をねらいとしている。

II. 日本キッズアスレティックス協会の役割と資格ステージ

日本キッズアスレティックス協会は、日本におけるIAAF Kids Athleticsの普及振興団体として認可され、その教育システムに準拠した日本キッズアスレティックス協会認定Instructor「インストラクター：指導員」の養成講習会を全国の都道府県・市区町村などスポーツ行政単位、広域・地域・民間スポーツクラブ、大学・専門学校などで行っている。

Ⅲ. 講義内容及び時程

キッズアスレティックス講習会のスケジュールは表1の流れを基本にし、開講施設、受講生の状況に応じて柔軟に対応をしている。その際、座学については、国際陸連から認定を受けたコーチ教育の担当講師やレベル1コーチ資格を取得した有志で編集をした「キッズアスレティックス教本」を用いて、「キッズアスレティックスの理念」、及び「国際陸連のコーチング理念」(表2)、「発育発達とキッズコーチング」、「トレーニングの基礎知識」、「マネジメント」等の学びを深められるようにしている。また、実技については、ステージ1では「フィジカルチェック」を中心に、実際の指導用のプログラムの実践を行い、ステージ2では指導実習を行うとともにグループワークを行い、コミュニケーションスキルの向上と、プレゼンテーションの能力の向上を目指す内容を網羅している。

なお、講習の最後には検定試験を行い、そこで合格基準を満たすことにより、資格の認定がなされる。(表3)

Ⅳ. 2013年度の実施実績と受講者のコメント

2013年度については、帝京大学八王子キャンパスにおいて表4の日程で講習会を実施した。なお、学内の受講者については、リフレクションとして感想を述べさせている。(表5)

また、2013年11月30日(土)には、東京都あきる野市で行われた「キッズアスレティックス・イベント」において、2013年9月1日までにインストラクター資格取得者の9名がイベントのスタッフとして参加をした。

Ⅴ. 今後の展望・まとめ

今日の子どもたちの「運動離れ」または「運動をする者とならない者の二極化」の状況を鑑みると、スポーツ指導者として講習の内容を理解し、実践を積み重ねて行くことは意義深いことといえる。

それは、キッズアスレティックス講習の受講が、単に資格取得を目的とするものではなく、運動の実践場面に

表1 講習タイムスケジュール

時程	S1：アシスタントコース	S2：インストラクターコース
9：00～ 9：30	集合・受付	集合・受付
9：30～ 10：00	開講式・ガイダンス	ガイダンス
10：10～11：10	講義（コーチング論）	実技（KA種目）
11：20～ 12：20	グループワーク（課題発表）	実技（KA種目）
13：20～ 14：50	実技（フィジカルチェック）	実技プレゼン（指導法試験）
15：00～ 16：00	講義（マネジメント論）	筆記問題
16：10～ 16：40	筆記試験	最終試問
16：50～ 17：00	閉講式	閉講式

表2 国際陸連のコーチング理念

1	子ども達に興味を抱かせ、達成感をもたせるコーチング
2	“選手第一（Athlete First）1勝利は第二（Winning Second）” コーチング
3	計画的なトレーニングにより10年後を考えるコーチング “10年の法則（The Rule of 10 years）”

表3 資格ステージ

ステージ1 (S1)：アシスタントインストラクター資格
ステージ2 (S2)：インストラクター資格
ステージ3 (S3)：シニアインストラクター資格

表4 2013年度の実施実績

開催日	コース	受講者数	受講者内訳	合格者数
2013年 7月13日(土)	S1	28名	帝京大学学生 28名	28名
2013年 9月 1日(土)	S2	11名	帝京大学学生 11名	11名
2013年12月 7日(土)	S1	34名	帝京大学学生 14名 他大学 学生 16名 一般社会人 4名	34名
2013年12月 8日(日)	S2	35名	帝京大学学生 15名 他大学 学生 16名 一般社会人 名	35名
2014年 2月 8日(土)	S1	19名	帝京大学学生 10名 他大学 学生 5名 一般社会人 4名	19名

* 2014年2月9日(日)開催予定のS2コースは、悪天候により中止とした。

表5 受講者のリフレクション

<p>○今回キッズアスレティックスの講習会を受講し、私はスポーツの楽しさを学ぶことができました。その反面、指導する難しさや大変さが理解することができました。安全管理はもちろん、説明の仕方、見本の見せ方、子どもを観察し教えてあげるなど、これからの指導などにとっても生きてくると感じました。今やっているスポーツの指導にも、とても活かせることができ、沢山の事を学ぶことができました。</p> <p>○私は、今回講習会に出て、改めてスポーツの楽しさを学びました。それに、今まで私は勝ち負けにこだわってスポーツをしていた所がありました。しかし、講習を受けて、その考えは、スポーツの本質を捉えられていない、と気づきました。スポーツは何より楽しく行うことが大切です。この考えを思い出すことが出来て本当によかったです。</p>

において、コーチとなる指導者がどのように取り組むべきかを考える契機となり、その指導力を高めて行くための入り口となるからである。

帝京大学八王子キャンパスでの講習会の実施は、立地や規模の面で、非常に好条件である。更に、将来的には併設されている小学校・幼稚園でのイベント実施の可能性もあることから、今後も継続的に講習会を開催することが、学生の運動指導場面での実践力の育成に有用であり意義深いものとなる。

なお、キッズアスレティックス講習会の開催にあたっては、日本キッズアスレティックス協会代表 小林敬和氏をはじめ、スタッフの方々のご理解・ご協力のもとに運営されていることを述べ、感謝の意を表す。

参考文献

- 1) 小林敬和・繁田進・沼澤秀雄・井筒紫乃・桜井智野風・永島昇太郎・杉田正明・渡部誠・松田克彦・清水茂幸・秋元恵美・泉水朝宏・豊田裕浩・田代章・田中悠士郎・桜井治男・野村雅昭・近藤義人・山田真由美・原悦子・山本利春 (2014), 「キッズアスレティックス教本 [第2版]」, 日本アスレティックス協会
- 2) 岡野進・繁田進・熊原誠一・尾懸貢・高木恵美 (2010), 「陸上競技指導者教本アンダー13 楽しいキッズの陸上競技」, 大修館書店